

ハートふる LETTER



～ 骨粗鬆症の医療連携について ① ～

＜整形外科＞ 富澤 英明

みなさま、大変な状況の中、診療お疲れ様です。
 コロナ・ビフォーアフターで変わったことも多く、ご苦労されているかと思います。
 私の専門の整形外科では、外来ではテレワークの方の腰痛が増えました。
 手術症例では、単純に屋外受傷の骨折症例が減りました。スポーツ・通勤途中・酔っ払ってのケガなど
 ですね。
 ただ興味深いことに、高齢者の骨折手術はあまり減ってはいません。むしろ屋内の低エネルギー外傷
 にもかわらず、complicatedな骨折（粉碎・不安定型）が増えた印象があります。
 要因としては、外出制限によるロコモ・フレイルの進行、骨粗鬆症の悪化がありそうです。
 残念なことに、せっかく骨粗鬆症治療をしていたのに受診控えて脱落してしまい、骨折してしまった方も
 散見されました。
 コロナ禍の今、普段あまり実感することのない骨粗鬆症治療の有効性・重要性を感じています。
 象徴的な症例を提示させていただきます。

＜70代女性 歩いている足がもつれて受傷。大腿骨の粉碎骨折（写真1）＞

骨密度はごく低値、骨は脆弱で骨折型も不安定

髄内釘の手術を確実にし、（写真2）
術後テリパラチドを併用し骨癒合を促進、
早期に杖歩行が安定し術後5週で自宅退院



写真1

写真2

このような重症骨粗鬆症・脆弱性骨折の治療における重要なポイントは3つあります。

- ①手術の技術
- ②周術期の管理
- ③積極的な骨粗鬆症治療の併用



- 当院は
- …①→オペレーターとしての経験症例が圧倒的に多く、脆弱性骨折のオペに精通している
 - …②→循環器の専門病院であり、透析、糖尿病の専門医も在籍、連携がスムーズ
 - …③→出来高制（非DPC）病院であるため、必要な骨粗鬆症治療薬を選択できる

特に③の要因が大きいです。
 例えばテリパラチド（フォルテオ®・テリボン®）は、重症骨粗鬆症に使われる骨形成促進薬ですが、
 骨折の治癒促進効果も期待できるので、骨折術後に併用できれば、大きなアドバンテージになります。
 自分の経験上、昔なら難渋したであろう症例が、テリパラチド併用で安定して骨癒合していくの
 を見ると、医学の進歩に感銘を受けます。
 ただ高額であるため、一般のDPC病院では、積極的には使えません。
 先生方の大事な患者さん、骨が脆弱そうな方が、不幸にも骨折されてしまったら、ぜひ当院にご一報
 ください。適切に対応させていただきます。（No.②へつづく）

～ 骨粗鬆症の医療連携について ② ～

さて、今回の本題です。

入院中にいくら良い薬を使っても、その後のフォローをしっかりとしなければ、再骨折を予防することはできません。

従来型の病院整形外科のやり方、

《骨折で入院→疼痛改善→骨粗鬆症薬の処方なし→退院 →→→ 再骨折のループ》が反省されています。

ここ数年、地域全体で骨粗鬆症治療の継続率を上げる目的で、以下の取り組みが盛り上がってきています。

「骨折リエゾンサービス＝FLS：Fracture Liaison Service」

～ 骨折で入院、骨粗鬆症治療開始し、退院時に病院から地域クリニックへ骨粗鬆症薬のフォローを依頼、その後定期的に骨粗鬆症検査などは病院で行う～

「骨粗鬆症リエゾンサービス＝OLS：Osteoporosis Liaison Service」

～ 骨粗鬆症患者紹介を受け、検査・骨粗鬆症薬の選択・開始・指導をして、かかりつけの先生にお返し、薬を継続していただく。定期的に病院で検査フォロー～

当院整形外科ではもともと、骨折入院の方が退院する際には、紹介状にて薬剤継続の依頼をさせていただいており、いわゆる骨折リエゾンサービス（FLS）を実践しています。

今後さらに、新たな取り組みとして、骨粗鬆症チーム（整形外科医・骨粗鬆症専門看護師・連携室・他各部署）による、出来高病院だからこそできる骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）を行っていきたいと考えております。

例えば、先生方かかりつけの患者さんが、当院の整形外科以外の科に入院した際でも、紹介状に一筆いただくか、連携室に一報いただければ、

骨粗鬆症の精査（骨塩・脊椎CT・骨代謝マーカー血液検査）をお引き受け致します。

骨粗鬆症と診断された場合、薬の開始・指導することも可能です。

患者さんにとって、骨粗鬆症薬を続けるモチベーションはなかなか得られにくいものがありますが、連携を通じて、少しでも継続率を上げられればと願っております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

整形外科	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	/	/	○
午後	○	/	○	/	○	—



【最寄駅】

- JR蒲田駅 徒歩6分
- 東急蒲田駅 徒歩6分
- 蓮沼駅 徒歩4分

お問い合わせ先 **東京蒲田病院** 〒144-0051 大田区西蒲田7-10-1

緊急や外来受診・予約

レスパイト・転院相談

患者連携室 03-6892-2834 患者支援室 03-6892-2812

FAX 03-6892-2813

土・日・祝、時間外・夜間 ➡ 病院代表 03-3733-0525